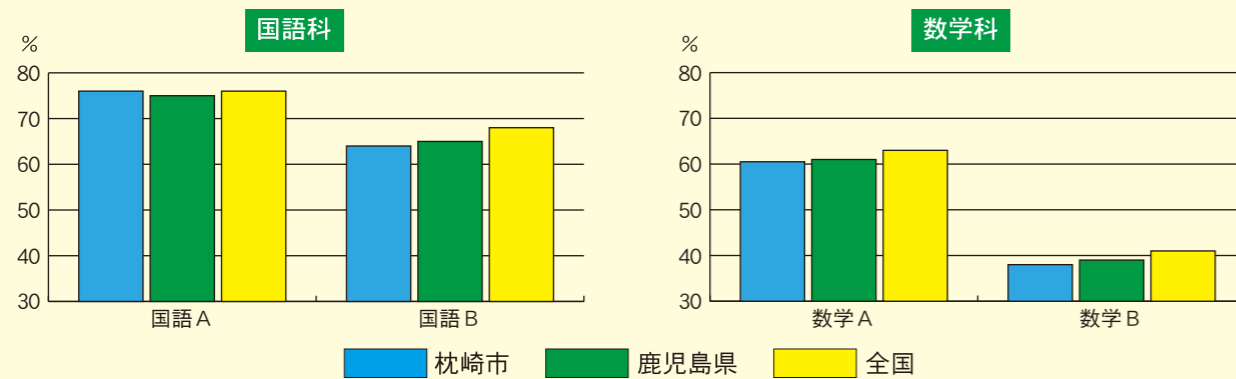


●学力調査の結果及び分析 (中学校3年生)



国語考察

A問題は、県を上回り、B問題では、下回りました。グラフをもとに伝えたい事柄を明確にして書いたり、段落ごとの内容を捉え、段落相互の関係を理解したりすることを苦手とする傾向がありました。

数学考察

A・B問題とも、県とほぼ同じ程度の結果となりました。資料から平均値を求めたり、基石全部の個数を一つの式で求めることができる理由を説明したりすることを苦手とする傾向がありました。

平成25年度 全国学力・学習状況調査 結果報告

家庭学習の時間は増えたが、学力調査結果は横ばい
家庭学習の時間(量)から、家庭学習の内容(質)を高める工夫を！

全国学力・学習状況調査
全国の小・中学校の学力や学習の状況を把握するために、全国の小・中学校の小学6年生と中学3年生の児童・生徒を対象に文部科学省が平成19年度から実施しています。(平成22・23年度は、全体の3割程度の学校を抽出調査)

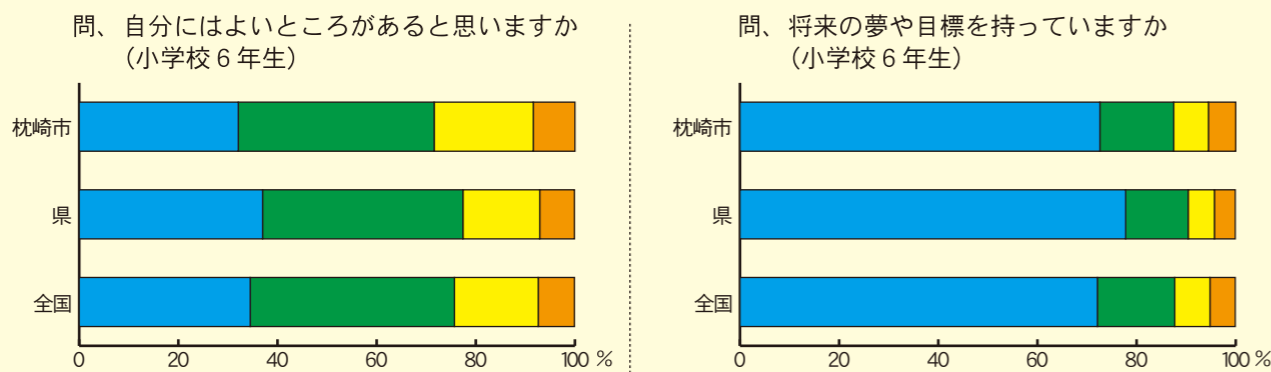
これを受け、本市では一人ひとりの児童・生徒の指導に生かせるように、調査結果の分析を各小・中学校で確実に、指導方法の改善に努めています。

本調査では、国語と算数・数学の2教科の「学力調査」と児童生徒に学習の状況や生活習慣などをたずねる「学習状況調査」の2種類の調査が行われました。

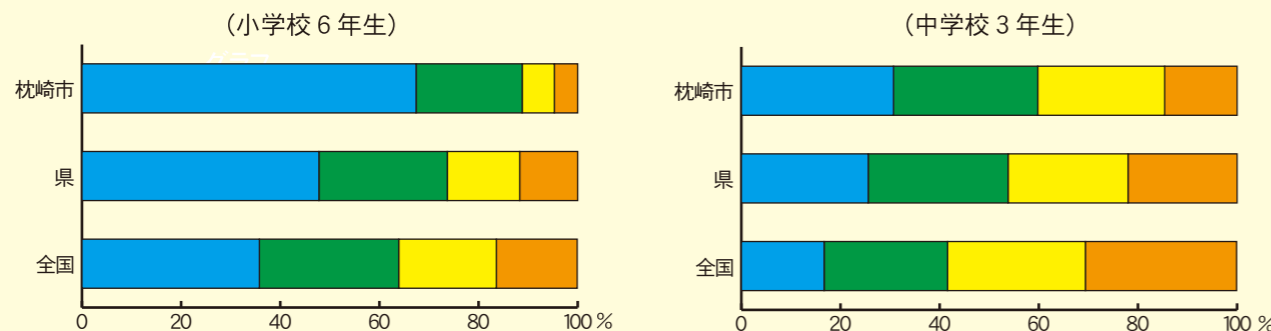
学力調査
学力調査では、確実に身に付けておかなければならない学習内容を問う問題(A問題)と、知識・技能などを実生活の様々な場面に活用する力を問う問題(B問題)が出題されました。

学習状況調査
学習状況調査では、「質問紙」を使用して、児童・生徒の学習意欲、学習方法、学習環境、生活の側面に関して選択形式で問う問題が出題されました。

●学習状況調査の結果



問、今住んでいる地域の行事に参加していますか (小学校6年生)



■ 当てはまる ■ どちらかといえば、当てはまる ■ どちらかといえば、当てはまらない ■ 当てはまらない

考察

本市の学習状況は、「将来の夢や目標を持っている」や「自分には、よいところがあると思う」小学校6年生の児童の割合は、県平均を下回っています。また、「今住んでいる地域の行事に参加する」児童生徒の割合はともに県・全国平均を上回っています。

今後の取組み

市教育委員会では、各種研修会や各学校での校内研修で指導、助言を行い、「分かる・できる」授業づくりを推進します。学校では、授業充実の3アクション(まとめと呼応したあての設定、考えを広げたり、深めたりするための山場の工夫、確実なまとめ)を意識しながら、校内研修で授業を通して実践を行い、指導法の工夫、改善に努めます。

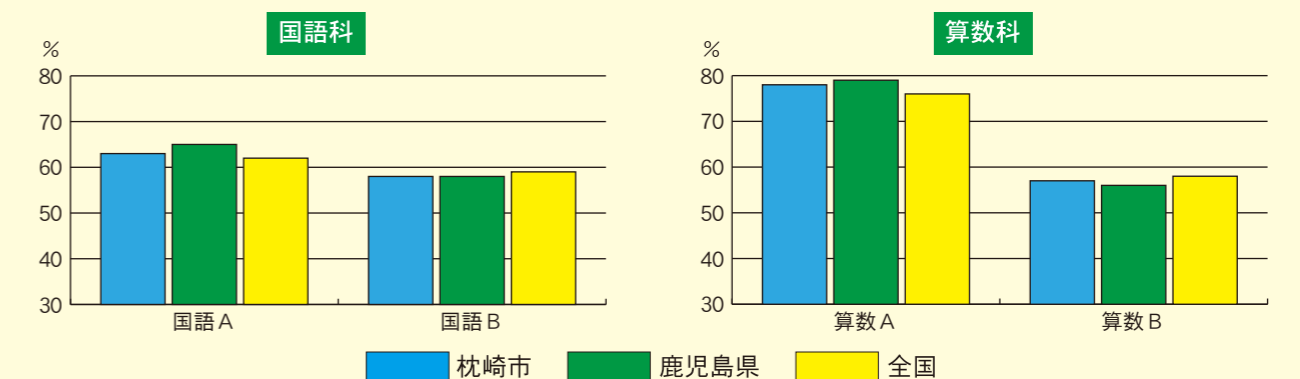
各中学校区での小・中一貫教育を充実し、指導法の改善や生徒指導の情報交換を行い、教育活動の充実に努めます。

授業では、「活用力を育てる実践事例集」や「アドバンスド南薩」の活用を促進し、児童生徒が持っている知識・技能の活用を図る指導法を工夫していきます。

家庭では、低学年40分、中学年60分、高学年90分、中学校120分運動を実践し、家庭学習の習慣化に努めます。テレビやゲームの視聴時間等家庭でのルールを決めさせ、生活習慣の確立に努めていきます。

それぞれの調査の結果と分析については次のとおりです。

●学力調査の結果及び分析 (小学校6年生)



国語考察

A問題は、全国を上回り、B問題では下回りました。接続語を使って1文を2文に分けて書いたり、複数の内容を関係付けたうえで、自分の考えを具体的に書いたりすることを苦手とする傾向がありました。

算数考察

A問題は、全国を上回り、B問題では下回りました。割合の意味を理解して解いたり、一つの図形で成り立つ条件が、他の図形でも成り立つかを調べたりすることを苦手とする傾向がありました。